

公益認定に関する事項

(1) 公益目的事業について

事業番号	事業の内容
公1	豊かな自然による世界ブランドの確立 ～阿蘇草原の維持・再生～

〔1〕事業の概要について

(1) 趣旨(目的)・まとめた理由

火山地形上にある全国的にも類のない広大な草原景観は、阿蘇地域の生産・生活を支える重要な資源であり、多くの観光客が訪れる観光産業をはじめ阿蘇地域全体の活力維持・向上に今後も不可欠な資源である。

しかしながら、近年の農産業の変容に伴い、草原維持を担ってきた牧野組合の縮減、縮小及び組合員の高齢化などにより、草原面積は減少し続けており、雄大な草原景観の劣化さへ懸念される非常に厳しい状況にある。そのため、本財団では、広く地域内外に向け草原景観の保全に向けた気運の醸成を図るとともに、地域ぐるみで行う草原保全活動に取り組んでいる。

また、草原をはじめとした豊かな自然を阿蘇地域全体の地域活性化につなげていくため、「阿蘇ユネスコジオパーク」としての活動や「世界文化遺産」登録に向けた取り組みについては、管内の市町村や他の関係団体と協調・連携する必要があるため広域的な機能を持つ本財団が主体的に事業を展開している。

こうした豊かな自然を活用した世界ブランドの確立を目的に行うア～オの事業は、共通の目的を達成するための手段として位置づけられることから一つにまとめた。

(2) 事業

ア 草原再生PR事業

【事業内容】

本事業は、阿蘇を代表する雄大な草原景観や森林景観、畜産、農業、水源涵養、観光といった草原の持つ多面的な機能を次世代へ継承する機運を高めていくため、その価値や現状を地域内外に向けて発信する。公益財団法人阿蘇グリーンストックが行うシンポジウムや講演会などの活動と連携、支援しながら阿蘇の草原の保全に寄与し、草原の置かれている現状を把握し、草原維持保全のために必要な調査・研究などを行う。

【受益者】

阿蘇の豊かな自然環境を享受する地域住民及び阿蘇を訪れる不特定多数の人々。

イ 野焼き支援事業

【事業内容】

本事業は、担い手の高齢化、後継者不足により、放棄地面積が年々拡大する現状を踏

まえ、阿蘇草原再生協議会や阿蘇草原保全支援システム連絡会などと連携を図り、輪地切りや野焼き体験活動を組み込んだ旅行商品や教育・研修旅行の企画開発を推進し、地域内外のボランティア有志の参加を促すとともに、安全な活動に必要な備品などの購入費用を助成するなど、更なる草原再生の機運の醸成を図る。

【受益者】

阿蘇の豊かな自然環境を享受する地域の住民及び阿蘇を訪れる不特定多数の人々。

【助成対象者】

地域の牧野組合等の野焼きなどに従事するもの及び不特定多数のボランティアなど。

ウ 阿蘇産品の振興

【事業内容】

あか牛をはじめとする阿蘇の畜産や、農産物など、阿蘇の世界ブランド確立の礎となる阿蘇産品の魅力を発信し振興を図る。さらには災害を機に阿蘇産品が衰退しないよう、各種 PR を行うとともに物品販売の機会なども創出する。

【受益者】

阿蘇の豊かな自然環境を享受する地域の住民及び阿蘇を訪れる不特定多数の人々。

【補助対象者】

あか牛等の飼育をはじめとする第一次産業従事者等。

エ、世界ブランド事業の推進

【事業内容】

本事業は、平成 25 年 5 月に「世界農業遺産」の認定、平成 26 年 9 月に「阿蘇ユネスコグローバルジオパーク」の認定を受けたことを踏まえ、関係自治体や世界農業遺産推進協会、阿蘇ジオパーク推進協議会などとの連携をはかりながら、国内外への情報発信やイベントの実施など「豊かな自然を活用した世界ブランドの確立」の目的達成に向けた取組を推進するとともに、阿蘇ジオパーク推進協議会に支援を行う。

【受益者】

阿蘇の豊かな自然環境を享受する地域の住民及び阿蘇を訪れる不特定多数の人々。

(3) 財源等

基本財産運用益を財源として事業を実施する。

(1) 公益目的事業について

事業番号	事業の内容
公 2	地域の元気再生による地域力向上

〔1〕事業の概要について

(1) 趣旨(目的)・まとめた理由

本財団では、阿蘇地域の地域力を高めることを目的に、地域資源を活用した地域づくり団体等の多様な取り組みを活性化し、地域住民とともに展開していく。また、その情報については、効率的かつ効果的な広報媒体を活用しながら情報発信を行っていく。

阿蘇地域の地域力を高めることを目的に行うア～エ事業については、共通の目的を達成するための手段として位置づけられることから一つにまとめた。

(2) 事業

ア 地域元気再生支援事業

【事業内容】

本事業は、神楽などをはじめとする伝統文化などの地域資源を活かした、伝統行事の再興に向けた取り組みや地域イベントの創出など、魅力ある地域づくりと地域の活性化を図ることを目的とした取り組みや、平成28年4月に発生した熊本地震をはじめとするさまざまな災害から復興を図ることを目的とした取り組みを促進するため助成を行う。

【受益者】

阿蘇の豊かな自然環境を享受する地域の住民及び阿蘇を訪れる不特定多数の人々。

【補助対象者】

阿蘇地域の各市町村及び市町村が推薦する団体・グループ。

イ 的確な情報の発信

【事業内容】

本事業は、上記アの取り組みを含む阿蘇各地の地域情報や地域の人々の活動や、国内外からの観光客誘致を視野に入れた阿蘇の景観・自然・食・温泉など資源、さらには阿蘇地域の各市町村が取り組む移住・定住に関する情報を各種広報媒体への掲載やイベントの開催などを通じて阿蘇地域内外へ向け一体的に発信し地域イメージを向上させ、地域づくり活動に対する機運の醸成と地域経済の活性化につなげる。それらに合わせ、熊本地震を始め昨今起こり得る災害情報とその復興・復旧に関する正確な現地情報や交通インフラ情報などについてもヒアリングなどを基とする調査や資料収集を行い阿蘇地域内外の不特定多数の人々に役に立つよう適切に発信する。

【受益者】

地域の住民及び阿蘇を訪れる不特定多数の人々。

ウ 阿蘇回帰運動への取り組み

【事業内容】

本事業は、阿蘇地域における少子高齢化による過疎化や、平成28年4月に発生した熊本地震による人口の流出に歯止めをかけることを目的とし、各種広報媒体やフェアなどにおいて阿蘇地域の魅力や各市町村及び各種団体が取り組む移住定住に関する取り組みの一体的な発信や、地域の関係者向けの研修やセミナーなども行うことで情勢への理解を深める。併せて阿蘇地域へ移住定住を検討する人々への相談業務なども行いながら、阿蘇地域と継続的なつながりを持つ関係人口を創出する。

【受益者】

地域の住民及び阿蘇に関わる不特定多数の人々。

エ 人材育成事業

【事業内容】

本事業は、阿蘇地域に関わる人々に対し、来訪客へのおもてなしや地域の資質向上を目的とし、ニーズに応じた研修会を開催する。また、復興に取り組む支援者や支援組織の活動のサポートを含んだ地域の情報交換や人材交流、人材発掘などを目的として研修会やセミナーなどを開催し、人がつながりスキルアップができる場づくりを提案する。

【受益者】

地域の住民及び阿蘇に関わる不特定多数の人々。

(3) 財源等

基本財産運用益を財源として事業を実施する。

(1) 公益目的事業について

事業番号	事業の内容
公3	広域連携による競争力のある観光地づくり

〔1〕事業の概要について

(1) 趣旨(目的)・まとめた理由

本財団は、阿蘇の地域経済の活性化を促進し、滞在交流型の観光地づくりを進めるため、自然景観をはじめとする地域資源を活用した阿蘇地域ならではの旅行商品などのコンテンツづくりや地域が一体となった受け入れ体制の強化を進めながら、競争力のある観光地づくりを目指す。

競争力のある観光地づくりを目的とするア、イの事業については、共通の目的を達成するための手段として位置づけられることから一つにまとめた。

(2) 事業

ア 新たな阿蘇資産の構築・推進

【事業内容】

本事業は、従来からのエコツーリズム、グリーンツーリズムなどに踏まえ、阿蘇らしい新たな観光ツールづくりを実施するとともに、「食と農、暮らし、景観」をテーマとしたツーリズム活動などを推奨するため「阿蘇エコツーリズム協会」や「阿蘇グリーンツーリズム協会」、関係自治体など多様な関係者と相互に連携し、新たな地域資源の発掘や調査、資料収集を行い、専門家なども招聘した研修やセミナーなどを行うことで、地域の理解を深めながら滞在交流型の仕組みづくりを行い、来訪者にむけた情報発信や体験活動などを提供し、阿蘇の魅力について継続した普及啓発活動を行うものである。

【受益者】

地域の住民及び阿蘇を訪れる不特定多数の人々、及び新たな観光ツール（VR ツアー等）を利用して阿蘇を楽しむ人々。

イ 何度も訪れたいくなる観光地域づくり

【事業内容】

阿蘇地域への観光客の特徴として、リピーター率が高い傾向があり、何度も訪れる中で地域との関係が生まれ、移住につながるケースも見られます。また、SDGs においては、「目標 11 住み続けられるまちづくりを」の具体的ターゲットとして、都市部と周辺部・農村部が良好につながる必要性が示されている。

本事業は、「何度も訪れる旅、通う旅」（リビジット）に向けて、阿蘇地域の四季折々の表情、個性豊かな地域ごとの魅力、地域の食材を生かした食、訪れるたびに得られる発見・体感など、様々な魅力を活かして、何度も訪れたいくなる観光地域づくりに取り組

むものである。

【受益者】

阿蘇くじゅう観光圏を来訪する不特定多数の人々、及び新たな観光ツール（VR ツアー等）を利用して阿蘇を楽しむ人々。

ウ 広域連動型観光まちづくり事業

【事業内容】

本事業は、阿蘇地域を構成する 8 市町村だけでなく、他県の周辺地域や全国の観光圏との連携を図り、DC の人的ネットワーク等を活用しながら、地域連携 DMO として「広域周遊型の観光まちづくり」の構築・発展を目指すものである。また、合わせてインバウンドの再来を見据え、外国人観光客の受入れに対応できる環境整備に取り組むものである。

【受益者】

阿蘇くじゅう観光圏を来訪する不特定多数の人々、及び新たな観光ツール（VR ツアー等）を利用して阿蘇を楽しむ人々。

（３）財源等

観光庁補助金、関係市町村負担金及び基本財産運用益を財源とし事業を実施する。